

『日本語教育の参照枠』の理解・活用レベルについて

この『日本語教育の参照枠』の理解・活用レベル（本体は p.3 以降）は、研修デザイン等に役立つことを期待して作成されました。①～④をお読みの上、ご活用ください。

①作成の目的

『日本語教育の参照枠』の理解・活用レベルは、「日本語教育の参照枠」を活用した教育現場での実践（カリキュラム・シラバスの作成、授業活動および評価の実践等）に向け、より効果的で質の高い教員研修を設計・実施しやすくなることを目的に作成した。なお、ここでいう教員研修には、教育機関を限定しない広域研修だけでなく、各教育機関で実施される機関内研修も含む。

②期待される効果

『日本語教育の参照枠』の理解・活用レベルを用いることによって期待される効果は以下の3点である。

（1）研修企画者・実施者にとっての効果：

研修参加者の「日本語教育の参照枠」に関するレディネス（レベル）を事前に把握することにより、より適切な研修デザインを行うことができる。

- ・研修の「対象者（誰に）」「目的（何のために）」「目標（ゴール）」を焦点化できる。
- ・研修の「内容（何を）」「方法（どのように）」の検討・策定が行いやすくなる。
- ・研修の「対象者」「目的」「目標」を明確化し、研修参加者と共有しやすくなる。

（2）研修参加者にとっての効果：

自身の「日本語教育の参照枠」の理解・活用の状態（レベル）を把握することにより、自らに適した研修を選んで参加したり、研修への参加動機を明確にすることができる。

- ・自らの現状と課題が明らかになることで、研修への参加動機が向上する。
- ・研修に参加する前と後の変化を確認しやすくなり、今後の目標も定めやすくなる。

（3）全ての教職員にとっての効果：

教職員自らが自己評価に取り組むことは、学習者が「日本語教育の参照枠」を用いた自己評価を行うのと類似の体験となる。これにより、学習者の心理が理解しやすくなると同時に、自己評価を通じた自律的・主体的な学びの意義を実感しやすくなり、学習者に対する説明や声かけもしやすくなる。

③構成

「日本語教育の参照枠」の「全体的な尺度」（p.22）および「言語活動別の熟達度」（p.23）を参考に、「7つのレベル」を設け、「～できる（Can do）」という表現で記述した。また、「日本語教育の参照枠」の「コミュニケーション言語活動」の一覧と同様に【 】の記号を

用いて「5つのカテゴリー」を示した。具体的には以下の通りである。

〈7つのレベル〉

「日本語教育の参照枠」の理解度および活用度のレベルを以下の7段階で示している。

- ・基礎的な活用者：Pre-A1、A1、A2
- ・自立した活用者：B1、B2
- ・熟達した活用者：C1、C2

〈5つのカテゴリー〉

「日本語教育の参照枠」を理解・活用するための5つのポイントを【カテゴリー】として以下のように示している。

- 【情報へのアクセス】 【構成の理解・発信】 【教育実践の理解・発信】
- 【教育実践の理解・経験・発信】 【研修の企画・実施】

④使い方と留意点

「タテ版」は全体的な理解・活用度の把握に役立ち、「ヨコ版」はカテゴリーごとの理解・活用度の把握に役立つ。これは、総合的なレベルを一つだけ選ぶことを目的に作成したものではなく、【カテゴリー】ごとに異なるレベルになり得ることを前提に作成したものであり、「日本語教育の参照枠」の「活動 Can do」(pp. 24-48)を用いた評価（教員評価、学習者による自己評価等を含む）において、言語活動別あるいは言語活動カテゴリー別にレベル差が生じるのと同様である。機関内研修を企画する際には、個々の理解・活用状況を鑑み、どのような教員に対して、どのような内容の研修を行うことが適切であるかを検討するのに役立つと思われる。

なお、レベルやカテゴリーに改善点があれば、各教職員あるいは各機関で加筆修正を試み、より使いやすいものに作り直していただくことを期待する。その批判的検証や加筆修正作業自体にも研修的意義があると思われるからである。

※本資料は、文部科学省委託「令和6年度『日本語教育の参照枠』を活用した教育モデル開発・普及事業【留学】」（一般財団法人日本語教育振興協会受託）の委員・奥村三菜子による成果物であるため、営利目的での転載・転用・加工・修正を禁止します。（2025年2月18日現在）

「日本語教育の参照枠」の理解・活用レベル

○ 7つのレベル

理解度・活用度のレベルを7段階で示しています。

- ・ 基礎的な活用者：Pre-A1、A1、A2
- ・ 自立した活用者：B1、B2
- ・ 熟達した活用者：C1、C2

○ 5つのカテゴリー

理解・活用するためのポイントを5つの【カテゴリー】で示しています。

- ・ 【情報へのアクセス】
- ・ 【構成の理解・発信】
- ・ 【理念の理解・発信】
- ・ 【教育実践の理解・経験・発信】
- ・ 【研修の企画・実施】

〈補足〉

- ・ 総合的なレベルを一つだけ選ぶことを目的に作成したものではありません。
カテゴリーごとに異なるレベルになり得ることを前提に作成しています。
- ・ 「日本語教育の参照枠」の「全体的な尺度」(p.22) および「言語活動別の熟達度」(p.23) の表形式を参考に作成しました。

＊ 「日本語教育の参照枠 報告」(文化庁・文化審議会国語分科会, 令和3年10月12日)

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/93476801_01.pdf

「日本語教育の参照枠」の理解・活用レベル（タテ型）

熟達した活用者	C2	【研修の企画・実施】 ・「日本語教育の参照枠」に関する研修／ワークショップの講師ができる。 【構成の理解・発信】 ・「日本語教育の参照枠」の各種 Can do のしくみを他者に分かりやすく説明できる。 【理念の理解・発信】 ・「日本語教育の参照枠」の「言語教育観の三つの柱」の内容を他者に分かりやすく伝えられる。 ・「日本語教育の参照枠」の「評価の三つの理念」の内容を他者に分かりやすく伝えられる。 【教育実践の理解・経験・発信】 ・「日本語教育の参照枠」を参照してどのように授業の内容や方法を考えることができるか、他者に分かりやすく伝えられる。 ・「日本語教育の参照枠」を参照してどのように試験や評価を考えることができるか、他者に伝えられる。 ・「日本語教育の参照枠」を参照してどのようにカリキュラムを作成すればよいか、その考え方や方法を他者に伝えられる。
	C1	【研修の企画・実施】 ・「日本語教育の参照枠」に関する研修／ワークショップの企画やファシリテーションができる。 【構成の理解・発信】 ・「日本語教育の参照枠」の各種 Can do のしくみを他者に説明できる。 【理念の理解・発信】 ・「日本語教育の参照枠」の「言語教育観の三つの柱」の内容を他者に伝えられる。 ・「日本語教育の参照枠」の「評価の三つの理念」の内容を他者に伝えられる。 【教育実践の理解・経験・発信】 ・「日本語教育の参照枠」を参照してどのように授業の内容や方法を考えることができるか、他者に伝えられる。 ・「日本語教育の参照枠」を参照して試験や評価を主体的に考えることができる。 ・「日本語教育の参照枠」を参照して主体的にカリキュラム作成ができる。

自立した活用者	B2	【構成の理解】 ・「日本語教育の参照枠」に示されている各種活動 Can do には【カテゴリー】も示されていることを知っている。 ・「日本語教育の参照枠」に示されている３種類の「方略」が言える。 ・「日本語教育の参照枠」に示されている３種類の「能力」が言える。 【理念の理解】 ・「日本語教育の参照枠」の「言語教育観の三つの柱」のあらましが言える。 ・「日本語教育の参照枠」の「評価の三つの理念」のあらましが言える。 【教育実践の理解・経験】 ・「日本語教育の参照枠」を参照して授業の内容や方法を主体的に考えることができる。 ・「日本語教育の参照枠」を参照した試験や評価を考えたことがある。 ・「日本語教育の参照枠」を参照したカリキュラム作成に参加したことがある。
	B1	【構成の理解】 ・「日本語教育の参照枠」のどこに何を書いてあるか言える。 ・「日本語教育の参照枠」に示されている４種類の Can do が言える。 ・「日本語教育の参照枠」に示されている５種類の「活動」が言える。 ・「日本語教育の参照枠」に大きく３種類の「方略」が示されていることを知っている。 ・「日本語教育の参照枠」に大きく３種類の「能力」が示されていることを知っている。 【理念の理解】 ・「日本語教育の参照枠」の「言語教育観の三つの柱」を知っている。 ・「日本語教育の参照枠」の「評価の三つの理念」を知っている。 【教育実践の理解・経験】 ・「日本語教育の参照枠」を参照して授業の内容や方法を考えたことがある。 ・「日本語教育の参照枠」を参照した試験や評価の検討に参加したことがある。
基礎的な活用者	A2	【構成の理解】 ・「日本語教育の参照枠」の全体構成をだいたい知っている。 ・「日本語教育の参照枠」に４種類の Can do が示されていることを知っている。 ・「日本語教育の参照枠」に５種類の「活動」が示されていることを知っている。 ・「日本語教育の参照枠」の６つのレベルの基盤となる３種類の言語使用者の特徴を知っている。

		【理念の理解】 ・「日本語教育の参照枠」に「言語教育観の三つの柱」があることを知っている。 ・「日本語教育の参照枠」に「評価の三つの理念」があることを知っている。 【教育実践の理解】 ・「日本語教育の参照枠」を参照した教育実践（授業、カリキュラム作成、評価など）について勉強したことがある。あるいは、「日本語教育の参照枠」を参照した教育実践（授業、カリキュラム作成、評価など）に関する研修会やワークショップに参加したことがある。
	A I	【構成の理解】 ・「日本語教育の参照枠」を少し読んだことがある。 ・「日本語教育の参照枠」の目次を見たことがある。 ・「日本語教育の参照枠」の Can do は大きく 6 つのレベルに分けて示されていることを知っている。
	Pre-A I	【情報へのアクセス】 ・「日本語教育の参照枠」という資料があることを知っている。 ・「日本語教育の参照枠」をダウンロードし、手元に持っている。

「日本語教育の参照枠」の理解・活用レベル（ヨコ型）

段階	レベル	情報へのアクセス	構成の理解・発信	理念の理解・発信	教育実践の理解・経験・発信	研修の企画・実施
熟達した活用者	C2		・「日本語教育の参照枠」の各種 Can do のしくみを他者に分かりやすく説明できる。	・「日本語教育の参照枠」の「言語教育観の三つの柱」の内容を他者に分かりやすく伝えられる。 ・「日本語教育の参照枠」の「評価の三つの理念」の内容を他者に分かりやすく伝えられる。	・「日本語教育の参照枠」を参照してどのように授業の内容や方法を考えることができるか、他者に分かりやすく伝えられる。 ・「日本語教育の参照枠」を参照してどのように試験や評価を考えることができるか、他者に伝えられる。 ・「日本語教育の参照枠」を参照してどのようにカリキュラムを作成すればよいか、その考え方や方法を他者に伝えられる。	・「日本語教育の参照枠」に関する研修／ワークショップの講師ができる。
	C1		・「日本語教育の参照枠」の各種 Can do のしくみを他者に説明できる。	・「日本語教育の参照枠」の「言語教育観の三つの柱」の内容を他者に伝えられる。 ・「日本語教育の参照枠」の「評価の三つの理念」の内容を他者に伝えられる。	・「日本語教育の参照枠」を参照してどのように授業の内容や方法を考えることができるか、他者に伝えられる。 ・「日本語教育の参照枠」を参照して試験や評価を主体的に考えることができる。 ・「日本語教育の参照枠」を参照して主体的にカリキュラム作成ができる。	・「日本語教育の参照枠」に関する研修／ワークショップの企画やファシリテーションができる。
自立した活用者	B2		・「日本語教育の参照枠」に示されている各種活動 Can do には【カテゴリー】も示されていることを知っている。 ・「日本語教育の参照枠」に示されている3種類の「方略」が言える。 ・「日本語教育の参照枠」に示されている3種類の「能力」が言える。	・「日本語教育の参照枠」の「言語教育観の三つの柱」のあらましが言える。 ・「日本語教育の参照枠」の「評価の三つの理念」のあらましが言える。	・「日本語教育の参照枠」を参照して授業の内容や方法を主体的に考えることができる。 ・「日本語教育の参照枠」を参照した試験や評価を考えたことがある。 ・「日本語教育の参照枠」を参照したカリキュラム作成に参加したことがある。	
	B1		・「日本語教育の参照枠」のどこに何が書いてあるか言える。 ・「日本語教育の参照枠」に示されている4種類の Can do が言える。 ・「日本語教育の参照枠」に示されている5種類の「活動」が言える。 ・「日本語教育の参照枠」に大きく3種類の「方略」が示されていることを知っている。 ・「日本語教育の参照枠」に大きく3種類の「能力」が示されていることを知っている。	・「日本語教育の参照枠」の「言語教育観の三つの柱」を知っている。 ・「日本語教育の参照枠」の「評価の三つの理念」を知っている。	・「日本語教育の参照枠」を参照して授業の内容や方法を考えたことがある。 ・「日本語教育の参照枠」を参照した試験や評価の検討に参加したことがある。	

段階	レベル	情報へのアクセス	構成の理解・発信	理念の理解・発信	教育実践の理解・経験・発信	研修の企画・実施
基礎的な活用者	A2		・「日本語教育の参照枠」の全体構成をだいたい知っている。 ・「日本語教育の参照枠」に4種類のCan do が示されていることを知っている。 ・「日本語教育の参照枠」に5種類の「活動」が示されていることを知っている。 ・「日本語教育の参照枠」の6つのレベルの基盤となる3種類の言語使用者の特徴を知っている。	・「日本語教育の参照枠」に「言語教育観の三つの柱」があることを知っている。 ・「日本語教育の参照枠」に「評価の三つの理念」があることを知っている。	・「日本語教育の参照枠」を参照した教育実践（授業、カリキュラム作成、評価など）について勉強したことがある。あるいは、「日本語教育の参照枠」を参照した教育実践（授業、カリキュラム作成、評価など）に関する研修会やワークショップに参加したことがある。	
	A1		・「日本語教育の参照枠」を少し読んだことがある。 ・「日本語教育の参照枠」の目次を見たことがある。 ・「日本語教育の参照枠」のCan do は大きく6つのレベルに分けて示されていることを知っている。			
	Pre A1	・「日本語教育の参照枠」という資料があることを知っている。 ・「日本語教育の参照枠」をダウンロードし、手元に持っている。				

〈参考〉 ＊（ ）は「日本語教育の参照枠」の参照ページ。

【理念】に関する基礎情報：

- ・「日本語教育の参照枠」の「言語教育観の三つの柱」(pp. 5-6)
 - 1 日本語学習者を社会的存在として捉える
 - 2 言語を使って「できること」に注目する
 - 3 多様な日本語使用を尊重する
- ・「日本語教育の参照枠」の「評価の三つの理念」(pp. 72-74)
 - 1 生涯にわたる自律的な学習の促進
 - 2 学習の目的に応じた多様な評価手法の提示と活用促進
 - 3 評価基準と評価手法の透明性の確保

【構成】に関する基礎情報：

- ・「日本語教育の参照枠」に示されている6つのレベル (pp. 17-18)
 - 基礎段階の言語使用者：A1、A2
 - 自立した言語使用者：B1、B2
 - 熟達した言語使用者：C1、C2
- ・「日本語教育の参照枠」に示されている4種類の Can do (pp. 24-65)
 - 活動 Can do、テキスト Can do、方略 Can do、能力 Can do
- ・「日本語教育の参照枠」に示されている5種類の「活動」(pp. 24-48)
 - 聞くこと、読むこと、話すこと（やり取り）、話すこと（発表）、書くこと
 - ＊それぞれの活動 Can do には、さらに下位カテゴリーが【 】で示されている。
- ・「日本語教育の参照枠」に示されている3種類の「方略」(pp. 49-53)
 - 産出的言語活動の方略、受容的言語活動の方略、相互行為活動（やり取り）の方略
- ・「日本語教育の参照枠」に示されている3種類の「能力」(pp. 55-65)
 - 言語能力、社会言語能力、言語運用能力（ディスコース能力、機能的能力）

以上